

意識調査報告書

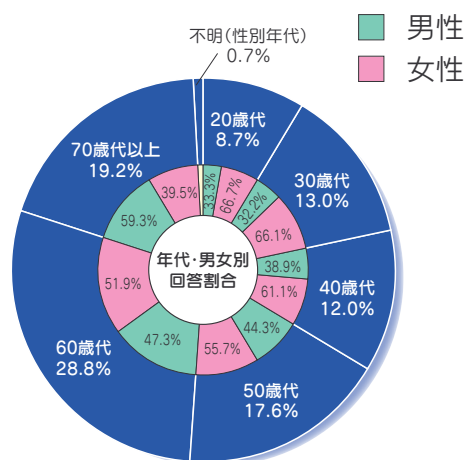
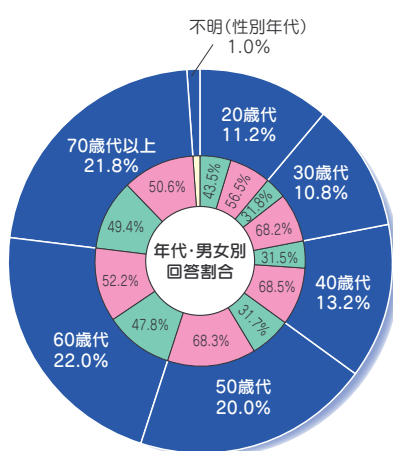
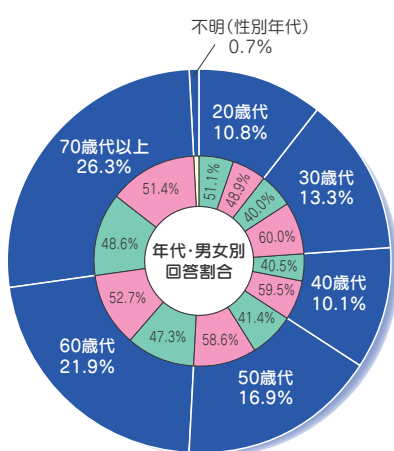
■市民の人権意識は？

可児市人権啓発センターでは、平成3年の開設以来、数年ごとに「市民の人権意識調査」を実施してきました。この調査の目的は、市民の皆さんの人権意識の実態を把握し、従来調査との差の大きさにより、その解決のための啓発活動を進め、調査結果を公表し、市民の皆さんの人権に対する関心を高めてもらうものです。今回は、平成26年度（前回）の調査内容を1項目（質問14）変更しております。また、過去の値と比較できるようにもしています。

今回の調査は、可児市市民部人づくり課の協力を得て実施しました。

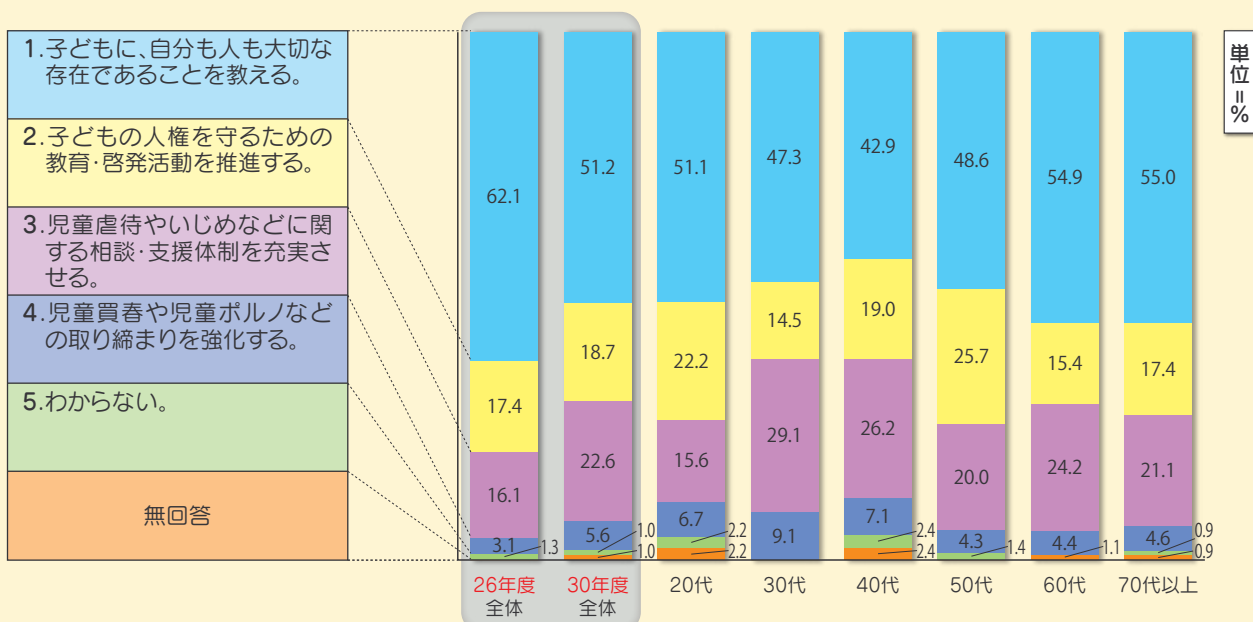
〈概要〉

年 度	平成30年度			平成26年度			平成22年度		
調査の時期	平成30年8月1日～8月15日			平成26年8月1日～8月15日			平成22年8月10日～8月25日		
調査の方法	無作為抽出法(市民1,000人)			無作為抽出法(市民1,000人)			無作為抽出法(市民1,000人)		
対象の属性 (20歳以上)	男性	500人	1,000人	男性	500人	1,000人	男性	500人	1,000人
	女性	500人		女性	500人		女性	500人	
回 答 者 数	男性	187人	415人	男性	165人	409人	男性	200人	449人
	女性	225人		女性	241人		女性	243人	
	不明	3人		不明	3人		不明	6人	
回 答 率	男性	37.4%	41.5%	男性	33.0%	40.9%	男性	40.0%	44.9%
	女性	45.0%		女性	48.2%		女性	48.6%	



※20歳以上の市民の中から、男女各500人を条件に無作為抽出としました。

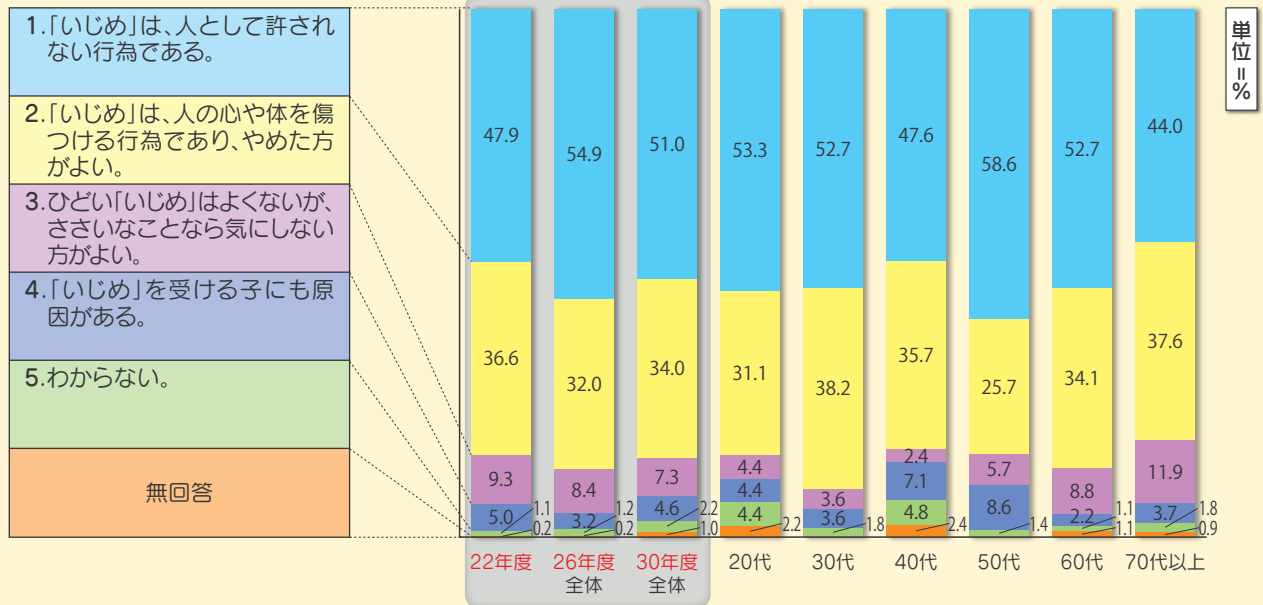
※回答率は前回より0.6%増加しました。前回同様女性の回答率が高い結果となりました。



【質問 3】「いじめ」について

子どもたち同士の「いじめ」によって「仲間はずれ」にされたり、時には「自殺」にまで追いやられたりする事件が起きています。「いじめ」について、あなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

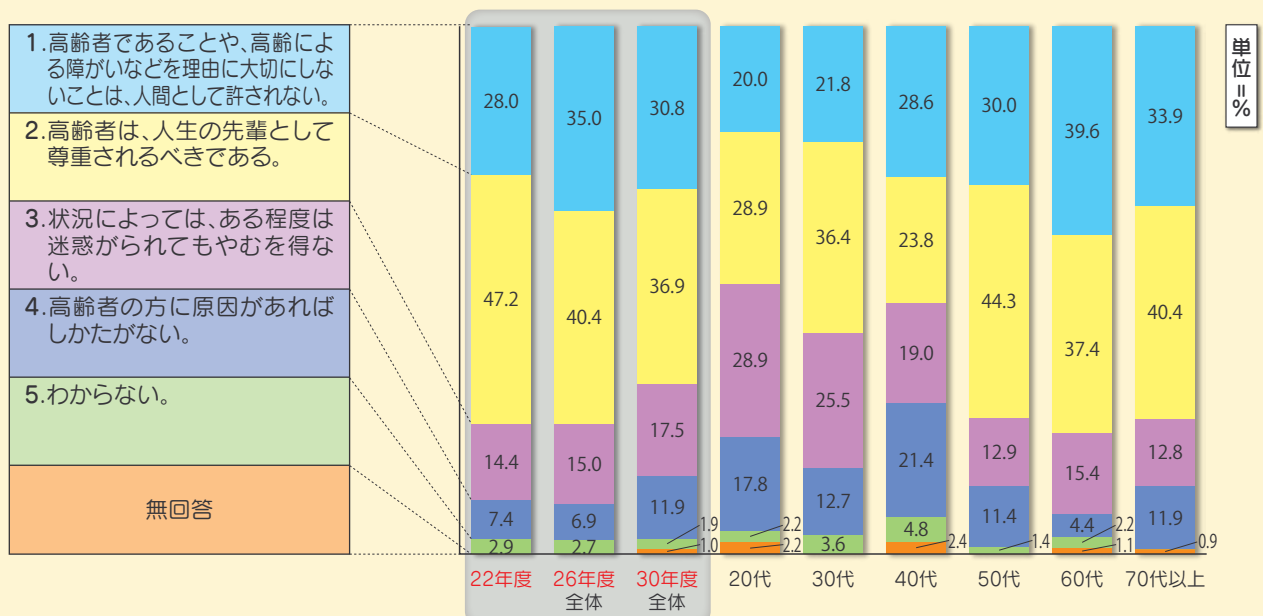
「いじめは人として許されない行為」(回答1)、「やめた方がよい」(回答2)と回答した人が全年代で80%以上あります。



【質問 4】高齢者について

仮に、あなたの近所の家庭で、高齢者が大切にされていないことを聞いた場合、あなたはどのように考えますか。あなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

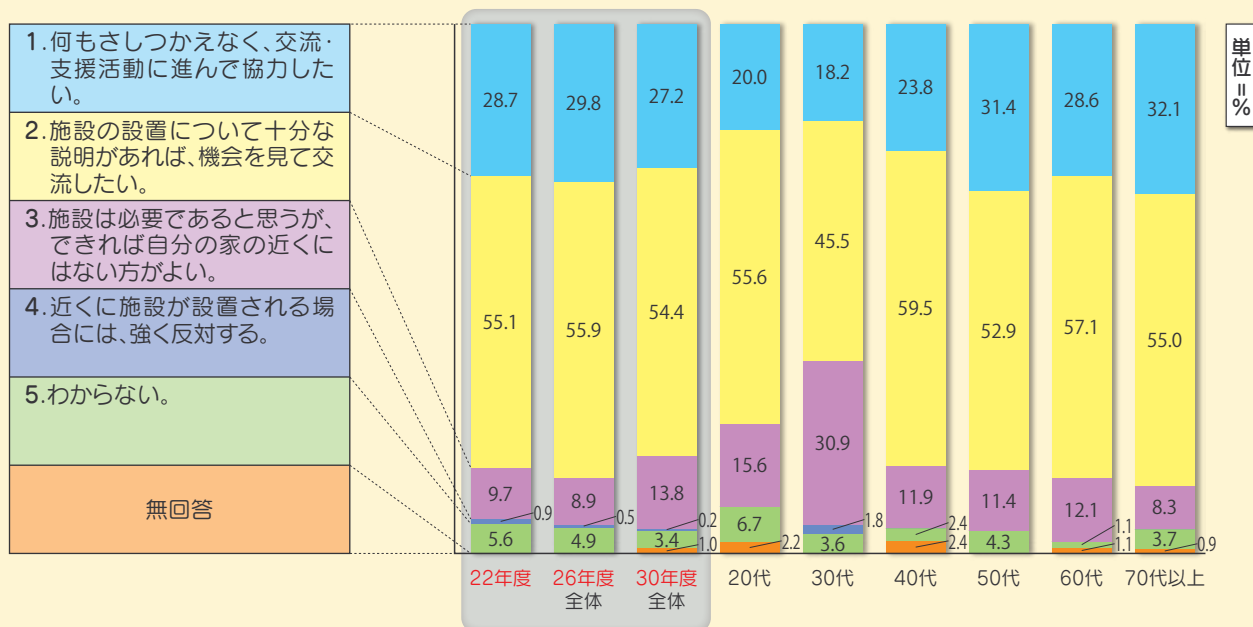
「迷惑がられてもやむを得ない」(回答3)、「原因があればしかたがない」(回答4)と答えた人が増えています。年代別では40代以下が高くなっています。



【質問 5】 障がい者について

仮に、あなたの近所に障がい者を支援する施設が設置されることになった場合、あなたはどのように考えますか。あなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

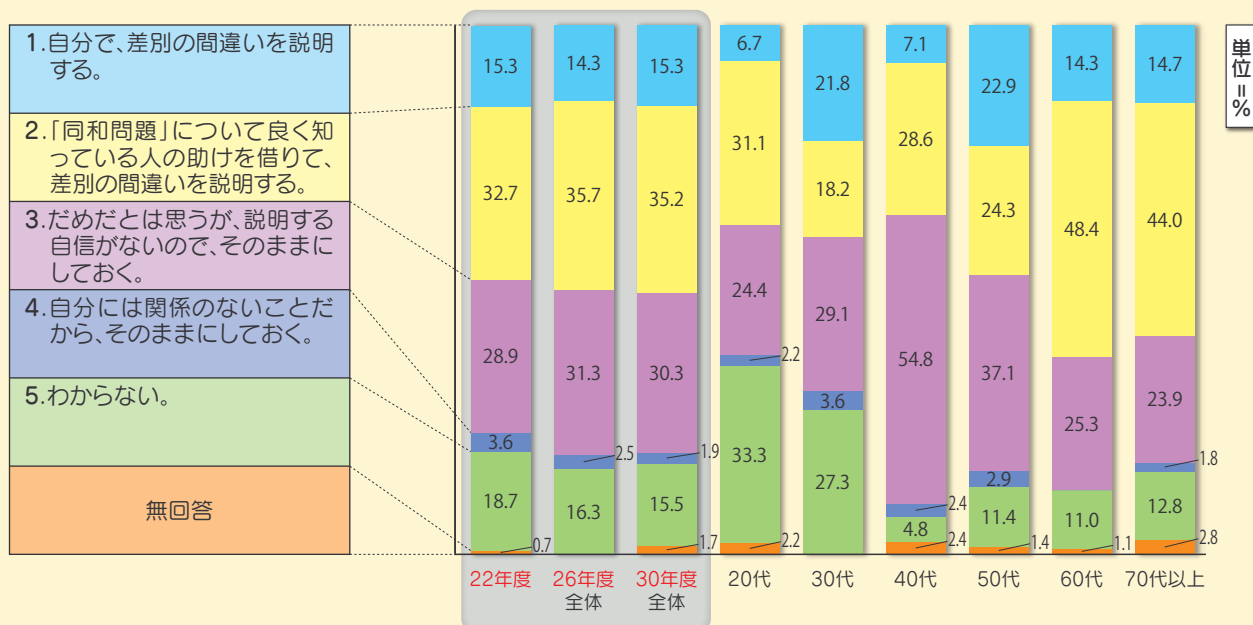
全体では「自分の家の近くにはない方がよい」（回答3）が増加しています。特に30代が高くなっています。



【質問 6】 同和問題について

仮に、あなたの身近な人が「同和問題」について差別的な発言をした場合、あなたはどのようにしますか。あなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

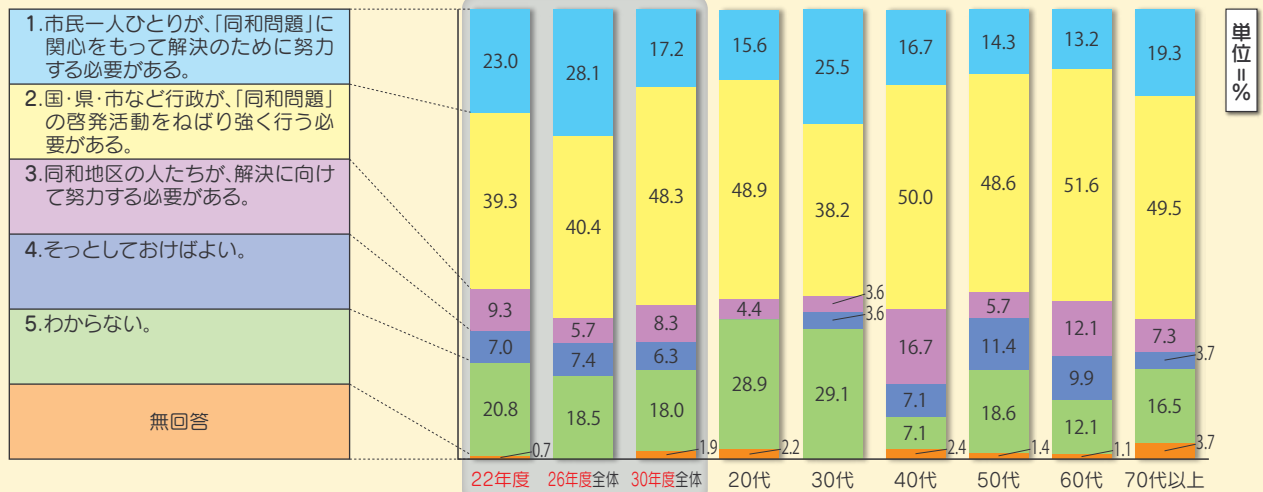
50代以下で「説明する自信がない」（回答3）、「わからない」（回答5）と回答した人が高くなっています。



【質問 7】 同和問題の解決について

あなたは、「同和問題」を解決するためには、今後どのようなことが必要であると思いますか。あなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

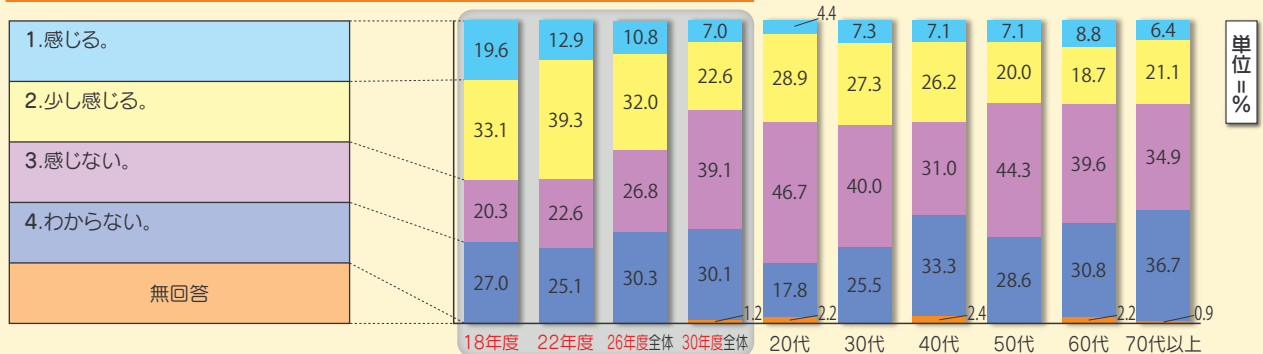
「市民一人ひとりが解決のために努力する必要がある」(回答1)が減少し、同和問題の解決は「行政が啓発活動をねばり強く行う必要がある」(回答2)と回答した人が増えています。



【質問 8】 外国人について

可児市には、多くの外国人が住んでいます。あなたは、外国人の日本での生活が、不利な取り扱いをされていると感じていますか。あなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

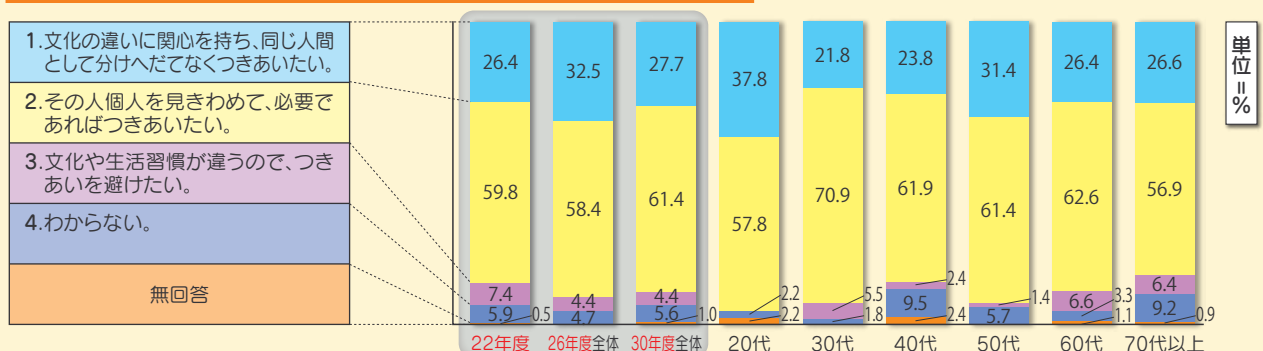
外国人の方が日本で不利な取り扱いをされていると「感じる」(回答1)「少し感じる」(回答2)と回答した人が前々回(18年度)、前々回(22年度)、前回(26年度)と毎回減少し、「感じない」(回答3)と回答している人が毎回増えています。



【質問 9】 外国人について

仮に、あなたの近所に外国人の人が住むことになった場合、あなたはどのように考えますか。あなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

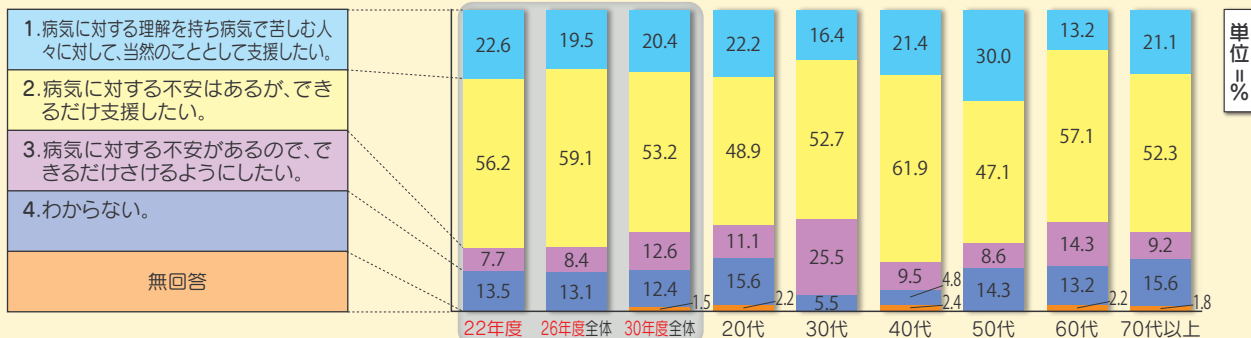
「同じ人間としてつきあいたい」(回答1)、「個人を見きわめてつきあいたい」(回答2)と回答した人が約90%と大半を占めています。その考えは若い世代ほど高くなっています。



【質問 10】 HIV感染者等について

エイズ患者・HIVやハンセン病などの感染者に対する差別をなくす取り組みが進められています。あなたの近くに感染者等がいた場合、あなたはどのようにしますか。あなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

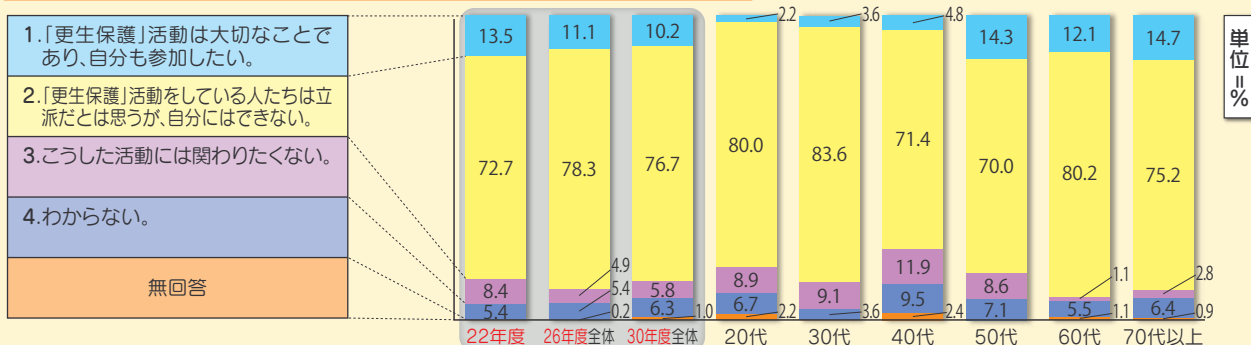
「当然のこととして支援したい」（回答1）、「できるだけ支援したい」（回答2）と回答した人が全年代でほぼ70%以上あります。「当然のこととして支援したい」（回答1）は、50代が一番高くなっています。



【質問 11】 更生保護活動について

犯罪や非行を行った人が早期に社会復帰できるように支援する、「更生保護」活動をしている人たちがおられます。もしあなたに「更生保護」活動に参加しませんかと呼びかけられたら、あなたはどのようにしますか。あなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

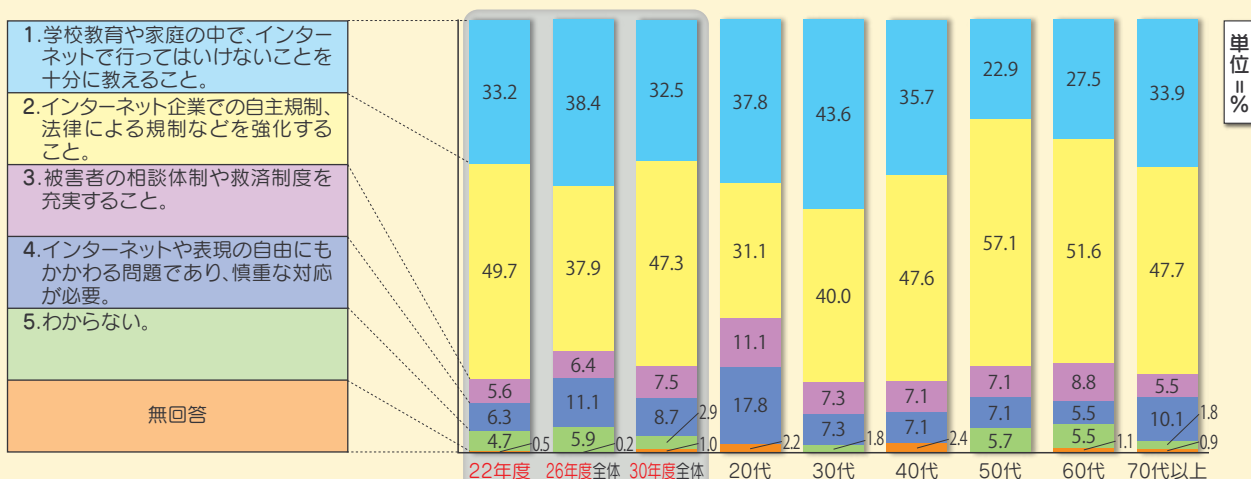
全体として差異はありませんが、全年代で「自分にはできない。」（回答2）と回答した人が70%～80%います。「自分も参加したい」（回答1）と考えている人は50代以上で高くなっています。



【質問 12】 インターネットによる人権侵害について

インターネット（パソコンや携帯電話）の普及に伴い、これらを悪用した人権侵害（差別、偏見、誹謗、中傷、他人に知られたくない情報を流すなど）が多くなっています。これらを無くすための方法について、あなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

前回より「企業の自主規制や法律による規制を強化する」（回答2）と回答した人が増加しました。反対に「学校教育や家庭の中で、十分に教える」（回答1）と回答した人は減少しました。

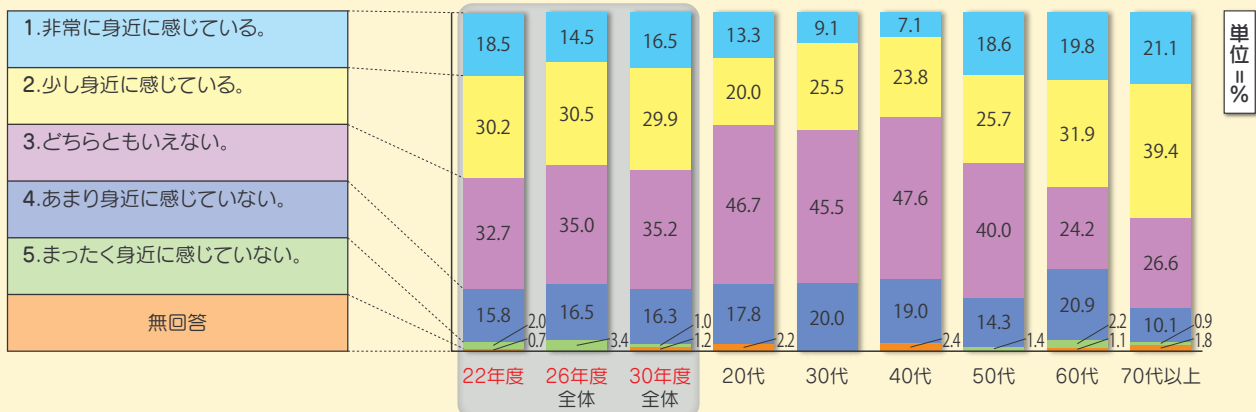


単位
Ⅱ
%

【質問 16】 人権の尊重について

あなたは、日ごろの生活の中で、互いの違いを認め合い、相手の立場を尊重するなどの「人権の尊重」について身近に感じていますか。あなたの感じ方に近いものを1つだけ選んでください。

構成比率は前回とほぼ同じですが、「身近に感じている」（回答1+2）と感じている人が、概ね世代が高いほど高くなっています。



調査考察

①今回と前回の調査結果について

全体の回答者数が微増しました。

性別では、男性が前回より4ポイント増加し、女性は3ポイント減少となりました。

年代別では、30代、70代以上の回答者の割合が上がり、他の年代では減少しました。

②前回の調査より数値が大きく変化した質問には次のようなものがあります。

質 問	回 答	数値変化
2 こどもの人権について	1. 子どもに、自分も人も大切な存在であることを教える。	62.1⇒51.2 10.9ポイント 減
7 同和問題の解決について	1. 市民一人ひとりが、「同和問題」に関心をもって解決のために努力する必要がある。	28.1⇒17.2 10.9ポイント 減
8 外国人について	2. 不利な取り扱いをされていると少し感じる。	32.0⇒22.6 9.4ポイント 減
	3. 不利な取り扱いをされていると感じない。	26.8⇒39.1 12.3ポイント 増
12 インターネットによる人権侵害について	2. インターネット企業での自主規制、法律による規制などを強化すること。	37.9⇒47.3 9.4ポイント 増
13 DV(ドメスティックバイオレンス)やセクハラ(セクシャルハラスメント)、パワハラ(パワーハラスメント)による人権侵害について	1. 「DV やセクハラ、パワハラ」は、人として許されない行為である。	64.0⇒54.6 9.4ポイント 減

外国人については理解が進んでいます。

③今後の方向性として

各質問から、人権問題に対して理解が進んだものもありますが、自分にはできない、身近には感じられないとするものもあります。

今後も人権を大切にする意識の醸成のために継続的な啓発活動をおこなってまいります。